

● 2016年（平成28年）4～6月

1 社会・治安情勢

（1）シリア国境における不法入国等

ア 4月3日、国境警備隊はヨルダンから隣国への不法越境企図者2名を拘束した（4月5日付各紙）。

イ 4月6日、国境警備隊はヨルダンから隣国への不法越境企図者を拘束した。

ウ 4月8日、国境警備隊はシリアからヨルダンへの不法越境企図者2名を殺害した。2名はカプタゴン10万錠を所持していた（4月9日及び10日付各紙）。※カプタゴン・・・中東で使用されている薬物の一種

エ 4月10日、ヨルダン軍は過去3日間で3件の密輸を阻止した。2件は周辺国からヨルダンへの越境を企図したものであり、1件はヨルダン川を越えてヨルダンへの入国を企図したものである。大麻722キロ及びカプタゴン359万錠を押収した（4月11日付ヨルダン・タイムズ紙）。

オ 4月11日、国境警備隊はヨルダンから隣国への不法越境企図者1名を逮捕した（4月13日付各紙）。

カ 4月16日、国境警備隊は、シリアからヨルダンへの密入国を企図した不審車両2台を破壊した。不法越境企図者は、シリア側に逃走した。車両から大麻1,650キロ及びカプタゴン467万錠を押収した。World Anti-Doping Agencyの報告によれば、ヨルダンは麻薬密輸の目的地ではなく、経由地とされている（4月17日付ヨルダン・タイムズ紙）。

キ 4月17日、国境沿いの難民キャンプに滞在していたシリア人がNGOの運転手を通じて密輸を試み、国境警備隊は、密輸関係者全員を逮捕した（4月19日付各紙）。

ク 4月22日、国境警備隊は、シリアからヨルダンへの麻薬を密輸しようとした2名のうち、1名を射殺した。1名はシリア側に逃走した（4月24日付ヨルダン・タイムズ紙）。

ケ 4月25日、国境警備隊は、ヨルダンから周辺国への密入国を企図した外国人12名を逮捕した。また、クイーンアリア国際空港の麻薬取締部は、同空港から0.5キロのコカインの密輸を企図した人物を逮捕した。

World Anti-Doping Agencyの報告では、ヨルダンは依然として麻薬密輸の仕向地ではなく、通過地点とされている。ハンマード前内務大臣は「ヨルダンの麻薬関連事案は昨年比で25%の増加となっている」と述べた（4月27日付ヨルダン・タイムズ紙）。

コ 4月28日、ヨルダン警察の麻薬取締部は、ヨルダン渓谷とアジュールの麻薬関係施設を捜索し、「麻薬王」と呼ばれる重要密売人を含む被疑者6名を逮捕した。

サ 5月4日、ヨルダン警察は、シリアから当国への密入国企図者を射殺し、16万錠の麻薬を押収した（5月5日付各紙）。

シ 5月8日、ヨルダン警察がアカバ港を經由して麻薬の密輸を企図した被疑者3名を逮捕した。同グループは、果物を積載したトラックに1,050キロの大麻を隠匿して、他のアラブ国からヨルダンへの密輸を企図していた（5月9日付ヨルダン・タイムズ紙）。

ス 5月9日、国境警備隊は、ヨルダンから陸路で隣国への越境を企図した外国籍の男性を逮捕した（5月10日付ヨルダン・タイムズ紙）。

セ 6月27日、ヨルダン軍は、北東部の国境においてシリアからヨルダン領内に不法に越境しようとした男性1名に対して然るべく対処し、同不法越境者は死亡した（6月29日付各紙）。

（2）ワディ・ムーサにおける騒擾事案

5月27日、ワディ・ムーサにおいて、数百人の住民が道路封鎖、車両への投石等を行う騒擾事案が発生した。警察関係者によれば、今回の騒擾事件はペトラ遺跡の周辺で発生したことから、一時的に旅行客を迂回させるなどの措置を取り、騒擾事案は翌日に収束した。今回の騒擾事案は、昨年発生し、未だに審議中である詐欺事件が発端となった（5月29日付ヨルダン・タイムズ紙）

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ヨルダン国境警備隊による本年中のこれまでの麻薬取締状況

ア 麻薬錠剤の押収量は既に昨年1年間と比べて12%増

イ 麻薬密輸企図を阻止した件数：280件（昨年中218件）

ウ 押収した麻薬錠剤（主にカプタゴン錠剤）：2,300万錠（昨年1,900万錠）

エ 麻薬関連事案の検挙件数：85件（昨年1年間で52件）（5月6日－8日付ヨルダン・タイムズ紙）

（2）アンマン市内での銃撃戦

ア 4月27日正午頃、アンマンのスウェフィエ地区においてヨルダン人2名が薬物を購入するために南米国籍者1名に接触した際、ヨルダン人2名が警察官に気付き、車両で逃走した。

イ 1名が逃走し、数十発を警察に対して発砲したが、警察の特殊部隊に検挙された（4月28日付ヨルダン・タイムズ紙）。

3 テロ・爆弾事件発生状況

（1）バカア難民キャンプにおけるテロ事案

ア 6月6日午前7時前にバカア難民キャンプにある情報総局（G I D）事務

所に対するテロ攻撃が発生し、同事務所関係者5名が死亡した。

イ 同日夜、G I Dは、主犯格の容疑者1名を首都アンマン県外のモスクの地下において逮捕した。

ウ G I Dによる捜査は継続中であるが、同事案についてはローン・ウルフ型のテロであると見ている（7日付ヨルダン・タイムズ紙等）。

（2）ルクバーン付近におけるテロ事案

ア 6月21日早朝、北東のヨルダン・シリア国境のルクバーン付近において、爆弾を積んだ車両がシリア側からヨルダン軍施設に突入した後に爆発し、ヨルダン軍関係者7名が死亡した。後に ISIL が犯行声明を出した。ヨルダン軍は、シリア及びイラクとの国境地帯を軍事閉鎖区域に指定し、立ち入り禁止措置とした（6月21日他各紙）。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。

（了）